あしたに、わくわくを。

2026 年 11 月 26 日

各位

池田泉州ホールディングス

FITA アワード 2026「FITA 奨励賞」を受賞しました

株式会社池田泉州ホールディングス（社長 CEO 阪口 広一）は、金融 IT 協会（FITA）が主催する「FITA アワード 2026」において、当社子会社である池田泉州銀行のデータ利活用基盤と営業支援システムを核とした営業 DX の取組みが評価され、FITA アワード 2026「FITA 奨励賞」を受賞しました。

今後も、第 6 次中期経営計画に基づき営業 DX を着実に推進し、地域企業の成長支援およびお客さまの資産形成支援の充実を通じて、地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

1．FITA アワードとは

金融 IT 協会（FITA）が、金融×IT 活用を通じて、顧客、地域、業務、組織、社会に持続的な価値を生み出している取り組みを表彰する制度です。

2．受賞理由

データを蓄える仕組みと現場で使う仕組みを結び、営業変革の土台を築く取組として、以下の評価いただきました。

- データの分散と属人化に対し、情報を蓄える基盤と現場で行動に移す仕組みを一体で整えた点を評価、システム刷新を営業変革として捉える意義がある。
- 現場の工夫を共有する進め方は、他の金融機関にも参考になる。今後、活用による業務や営業の変化を確かめ、業界への広がりと発展につながることを期待する取り組みである。

3．営業 DX の取組

当社の子会社である株式会社池田泉州銀行では、営業 DX にむけて本年 5 月に株式会社 NTT データが提供するデータ利活用基盤「Service Innovation Core（以下、SIC）」、8 月に株式会社セールスフォース・ジャパンが提供する営業支援システム「Financial Services Cloud（以下、FSC）」を稼働しました。

これにより、営業支援システムを中心に据え、複数のシステム・サービスを柔軟に連携させることで、お客さまの状況変化に即したアプローチとソリューション提供が行える体制を構築します。

また、データ利活用基盤（SIC）は、お客さまに関する情報・取引データ・各種チャネルの接点情報をグループ全体で統合・蓄積し、FSC をはじめとする各システムへデータを供給する役割を担います。

これら両システムの連携により、データに基づく営業活動の精度を高め、より質の高いサービス提供を実現してまいります。

＜池田泉州銀行　8 月 17 日リリース＞

営業 DX に向けた営業支援システムの稼働およびデータ利活用基盤の整備について

＜金融 IT 協会のリリース＞

FITA アワード 2026 受賞取り組みが決定しました　| 金融 IT 協会

以　上